－役員エッセイ－

大通公園を望む窓辺から

歴史教育と歴史認識

副会長　深澤　雅則

今年も８月15日の終戦記念日を迎えた。

安倍内閣は８月14日、戦後70年の首相談話を閣議決定し、その中で1931年の満州事変や1933年の日本の国際連盟脱退がその後の戦争へと突き進んだ重要な出来事だと述べている。

ところで大東亜戦争は一部の考えでは、欧米列強の侵略からアジアを救うためだったとの意見もあるが、当時の日本が韓国、中国や東南アジアの諸国に迷惑をかけた事は歴史的事実である。従軍慰安婦問題や南京大虐殺事件などでは事実関係が曖昧だったり、それぞれの国の主張が違うなど歴史認識に差異を生じている。

我が国の歴史教育に関して私自身は小・中・高校とＩ市で学生時代を過ごしたが、社会科・日本史などで現代史をしっかり教えてもらった事がない。

歴史の授業では邪馬台国が何処にあったか、女王卑弥呼がどうしたこうしたで、延々と時間をかけ幕末から明治維新あたりでスピードが鈍り、国際連盟脱退かその後のわずかの所でいつも教師が「時間が無いからこの後は教科書を読んでおいて下さい」で終わった。

現代史を教える事は先の大戦に対する批評も絡むので保身のための逃げだったのでしょう。

先日、全国紙の読者の投稿欄に私と同じように、近・現代史を習わなかった人の意見が載っていた。どうも全国的な傾向だったのかもしれない。現在、政治に携わっている人も普遍的な片寄りのない現代史教育を受けていなければ、近隣諸国との歴史認識の差は埋まらないと思う。

ごく最近の報道では、文部科学省が高校新科目として2022年にやっと歴史総合（近・現代史）の必修化を打ち出した。世界がグローバル化している中で、我が国の歴史教育は近・現代史が十分でなかったように思う。

自分の国の歴史を知らずして国際社会の中で活躍しようとしても無理があるのではないだろうか。

北海道新幹線

理事　恩村　宏樹

平成28年３月に北海道新幹線が開業する。それに向けて、現在、函館市や周辺地域では、さまざまな施設や交通機関の整備が着々と進められている。その一つとして、北海道初の新幹線駅になる新函館北斗駅と木古内駅では、北海道内居住者向けの見学会が実施された。

北海道新幹線の列車名は、「はやぶさ」「はやて」に決定。これで、東京・新函館北斗間は約４時間10分で結ばれる。新函館北斗からは、「はこだてライナー」と命名されたアクセス列車で、約17分でJR函館駅に着くこととなる。現在、新青森駅まで新幹線はきているが、そこから特急列車で函館まで２時間かかることを考えると、大幅な時間の短縮になる。

東京・函館間の飛行機の最終便は羽田発17：30であるが、北海道新幹線が開業すると、東京駅発19：00の新幹線に乗っても、十分その日のうちに函館に着くことができるようになる。個人的には、東京での滞在時間の延長が可能になり、少し贅沢ではあるが、グランクラスに乗れば、決して４時間を長く感じないのではないかと思っている。

新幹線開業による経済効果には疑問を呈する意見も多いようであるが、決してそんなことはないと思う。函館の主たる産業である観光に関していえば、今までほとんど北海道に旅行に来なかった東北の人々が気軽に訪れる可能性が大きくなる。そればかりか、函館への移住を考える人達がでてくれば、歯止めのきかない恒常的な人口減少に悩んでいる函館にとってはこんなありがたいことはない。北海道全体を考えると、函館・札幌間が早く開通したほうが良いと思うが、まだ15年程かかる見込みなので、それを期待するのは無理である。

いずれにしても、開業まで１年をきった今となっては、新幹線が北海道にもたらしてくれる恩恵を信じて心待ちするしかない。